

WLAC REPORT 2019

World Liberal Arts Center Report



名古屋外国語大学
ワールドリベラルアーツセンター長
亀山 郁夫 (学長)

巻頭言

ここに名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンターの活動報告書「WLAC REPORT 2019」をお届けします。

2015年に発足した本センターは、本年、設立5周年を迎えました。上半期は、上野千鶴子東大名誉教授・NPO法人ウィメンズアクションネットワーク（WAN）理事長をお迎えし、「これから女子の生きる道」と題した、今を生きる女性にとって興味深いテーマの講演会を開催しました。また、ブルガリア出身の異色の力士として名をとどろかせた大相撲鳴戸親方（元琴欧洲）との対談、さらには新企画「プレミアムシネマトークシリーズ」をスタートさせるなど、多彩なイベントを開催することができました。

下半期は、恒例となった愛知県立芸術大学大学院生によるランチタイム・ピアノコンサートやホワイトホースシアターの公演はもとより、異色の公演として、本学客員教授西川流四世家元西川千雅氏による「伝統舞踊へのいざない」を開催しました。舞台上で次第に獅子に変身していくさまをアクティブラーニング風の手法で教示するユニークな内容で会場も盛り上がり、最後は勇壮で美しい獅子の舞で幕を閉じました。

WLAC 5周年記念のイベントとしては、同じく設立5周年を迎えた出版会と合同で、主に出版にまつわる内容のイベントを開催しました。

以上、盛りだくさんのイベントにご参加下さいました学生、教職員、地域の方々にご心より御礼申し上げます。また、本センターの研究紀要である Artes MUNDI（アルテス・ムンディ）はより一層の充実を図り、今後も広く社会に向けて知的発信を強めていきます。

最後に、本センターは、学術研究の深化、教養教育の質の向上、情報発信力の強化等を目的として、2015年に全学的な組織としてスタートし、今年度をもって最初のサイクルにあたる5年間の活動を終えました。センター員一同、次の5年間にに向けてさらなる発展を目指したい考えです。

2019年度 活動一覽

講演会 2019年5月23日(木)
読むこと、書くこと、訳すこと
 コリーヌ・アトラン (作家、翻訳家)

フランス語学科主催
 WLAC 後援



パネル展示・講演会 2019年5月27日(月)
 (パネル展示)
英字新聞が伝えた「日本」の近現代
 ～「The Japan Times」120年の歴史を紙面でたどる企画展～
 (講演会)
英字新聞が伝えた「日本」～120年の歴史から見えてくるもの
 大門 小百合 (The Japan Times 編集局長)

(株) ジャパンタイムズ、WLAC 共催



シンポジウム 2019年6月26日(水)
WLAC Premium Cinema Talk シリーズ No.1

亀山 郁夫 (名古屋外国語大学学長)
 ヤニック・ドゥプラド (名古屋外国語大学教授)
 小川 真理子 (名古屋外国語大学非常勤講師)
 柿沼 岳志 (名古屋学芸大学講師)

WLAC 主催



対談 2019年6月28日(金)
わたしの相撲人生
 鳴門親方 (元大関 琴欧州)
 亀山 郁夫 (名古屋外国語大学学長)

現代国際学部主催
 WLAC 後援



講演会 2019年7月9日(火)
これから女子の生きる道
 上野 千鶴子 (東京大学名誉教授)

WLAC 主催
 国際教養学科後援



講演会 2019年7月24日(水)
WLAC Premium Cinema Talk シリーズ No.2
 亀山 郁夫 (名古屋外国語大学学長)

WLAC 主催



ワークショップ 2019年8月27日(火)
新学習指導要領対応 教員応援英語ワークショップ

太田 光春 (名古屋外国語大学教授)
 佐藤 一嘉 (名古屋外国語大学教授)
 高橋 直子 (名古屋外国語大学講師)
 矢後 智子 (名古屋外国語大学講師)

英語教育学科・専攻主催
 WLAC 後援



舞台 2019年9月28日(土)

あいちトリエンナーレ 2019 舞台芸術公募プログラム サルタン王の物語 ～熊ん蜂が飛ぶところ～

愛知ロシア音楽研究会主催
あいちトリエンナーレ実行委員会、WLAC 共催
日本・ロシア音楽家協会、日ロ友好愛知の会後援



公演 2019年10月2日(水)

ホワイトホースシアター 公演『マクベス』 ホワイトホースシアター (移動劇団)

WLAC 主催



公演 2019年10月4日(金)

伝統舞踊へのいざない 西川 千雅 (西川流四世家元)

現代国際学部主催
WLAC 後援



講演会 2019年10月17日(木)

アフリカで起業しませんか? 学びませんか? ～ TICAD7 を機会にアフリカを見直す～

佐藤 芳之 (オーガニック・ソリューションズ・ルワンダ創設者、社長)
成澤 徳子 (北海道大学国際連携機構 特任助教)

世界共生学科主催
WLAC 後援



講演会 2019年10月23日(水)

WLAC Premium Cinema Talk シリーズ No.3 白井 史人 (名古屋外国語大学講師)

WLAC 主催



特別講演会 2019年10月25日(金)

中国の改革開放の原点と日本の協力

張 雲方 (元人民日報日本特派員)
小田川 圭甫 (元上海宝山製鉄所プロジェクト等担当)

中国語学科主催
東海日中関係学会共催
東海日中貿易センター、WLAC 後援



コンサート 2019年10月30日(水)

ランチタイム・ピアノコンサート

近藤 聡美、匂坂 実佳 (愛知県立芸術大学大学院生)

WLAC 主催



講演会 2019年11月5日(火)

多文化社会における「人間の尊厳」概念

加藤 泰史 (一橋大学大学院社会学研究科教授)

現代英語学科主催
WLAC 後援



2019年度 活動一覧

講演会・公開対話 2019年11月11日(月)

もうひとつの『異邦人』 ムルソー再捜査

カメル・ダーウド(作家、ジャーナリスト)
李 琴峰(作家、翻訳者)

アリアンス・フランセーズ愛知フランス協会、フランス語学科共同企画
WLAC 後援



講演会 2019年11月11日(月)

アフガニスタン寺子屋の課題と現状

アーマド・ファリッド・ラヒミ(日本ユネスコ協会連盟アフガニスタン事務所職員)
鴨志田 智也(通訳、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟職員)

英語教育学科・専攻主催
WLAC 後援



出版会・WLAC 設立5周年記念イベント 2019年11月16日(土)

本の未来・本の魅力

黒田 拓也(大学出版部協会専務理事、東大出版会専務理事)
橘 宗吾(名古屋大学出版会専務理事、編集部長)
野谷 文昭(名古屋外国語大学名誉教授、東京大学名誉教授)
演奏・歌: 匂坂 実佳、近藤 聡美、長富 将士(愛知県立芸術大学大学院生)

WLAC、出版会共催



講演会 2019年11月25日(月)

ディケンズのことばを読むおもしろさ

佐々木 徹(京都大学文学研究科教授)

英米語学科主催
WLAC 後援



講演会 2019年11月27日(水)

WLAC Premium Cinema Talk シリーズ No.4

石田 聖子(名古屋外国語大学准教授)

WLAC 主催



講演会 2019年11月27日(水)

オルガ・トカルチュクの文学世界

小椋 彩(ロシア・ポーランド文学研究者、東洋大学助教)

世界教養学科、WLAC 共催



講演会 2019年12月5日(木)

大人になるためのリベラルアーツ

石井 洋二郎(中部大学教授、東京大学名誉教授)

WLAC 主催
CLED 後援



コンテスト 2019年12月7日(土)

第21回 英語スピーチコンテスト

本選審査員: 宇治谷 映子(名古屋外国語大学教授)
ミリアム・バスケス(名古屋外国語大学講師)
浅井 寿生(名古屋外国語大学講師)

外国語学部(英米語学科/英語教育学科)、現代国際学部 主催
WLAC 後援



講演会 2019年12月11日(水)

躍動するユーラシアの国、カザフスタン

ドスム・サトバエフ(政治アナリスト)
ヴァチエスラフ・ドドノフ(マクロ経済専門家)
オレグ・チェルヴィンスキー(ビジネス専門誌『Petroleum』編集長)

WLAC、一般社団法人ロシアNIS貿易会共催
世界共生学科後援



講演会 2019年12月13日(金)

逆境力を考える

歌川 たいじ(小説家、まんが家)

現代国際学部主催
WLAC 後援



ワークショップ 2019年12月14日(土)

The Effects of Language and Psychology in the Learning of English

吉田 研作(上智大学特任教授、言語教育研究センター長)

英語教員ワークショップ主催
WLAC 後援



講演会 2020年1月29日(水)

WLAC Premium Cinema Talk シリーズ No.5

柿沼 岳志(名古屋学芸大学講師)

WLAC 主催



ワークショップ 2020年2月20日(木)

ドストエフスキー国際ワークショップ

『カラマゾフの兄弟』の世界性

パーヴェル・フォーキン(モスクワ・ドストエフスキー博物館)
亀山 郁夫(名古屋外国語大学)

日本ドストエフスキー協会共催
WLAC 協力



ワークショップ・シンポジウム 2020年2月22日(土)

ドストエフスキー国際ワークショップ & シンポジウム

「ドストエフスキーの世界性」

望月 哲男(中央学院大学)
林 良児(名古屋外国語大学)
梅垣 昌子(名古屋外国語大学)
オリガ・フォーキナ(モスクワテレコム)
亀山 郁夫(名古屋外国語大学)
高橋 健一郎(札幌大学)
沼野 充義(東京大学)
番場 俊(新潟大学)

日本ドストエフスキー協会、名古屋モーツァルト協会共催
WLAC 協力



プレミアムシネマトークシリーズ

映画をテーマに「Nufs 映画祭—プレミアムシネマトーク」と銘打った5回にわたる講演会を開催しました。本学の学生たちに、世界中の素晴らしい映画について知ってもらい、というのが主なねらいです。あまり宣伝されず、いつの間にか人々の記憶から消え去った名作や、数十年の長きに渡って多くの人を感動させる作品が多々あることを彼らに知らしめること、そして「映画好き」の人々に、有名無名問わずの名作を、専門家の視点から新たに紹介する、という趣旨のもと開催しました。

第1回

私の《世界一》の映画—映画体験とは何か

2019年6月26日 シンポジスト 小川 真理子 柿沼 岳志 ヤニック・ドゥブラド：司会 亀山 郁夫

“NUFS 映画祭 2019 年” プレミアムシネマトークシリーズの第一弾では、映画を作る側・観る側双方の専門家が集い、「世界一」の一本について語り合いました。世界中数多ある映画の中からシンポジストたちに選ばれた一本は、映画好きの方にはもちろん、普段あまり映画を観ない方にとって新たな出会いとなりました。



第2回

映像表現としての「黙過」 イングマール・ベルイマン『処女の泉』

2019年7月24日 講師 亀山 郁夫

「黙過」、すなわち他者の不幸をまのあたりにしながら、見ぬふりをする。この、優れてドストエフスキー的といえる主題を、映画のジャンルはどう表現したのか？ スウェーデンの映像作家イングマール・ベルイマンの代表作のなかから、とくに『処女の泉』(Jungfrukällan, The Virgin Spring; 1960)を選び、この作品に賭けた彼の執念と、映画制作そのものの動機の根源に光を当てました。



第3回

音が「視せる」映画 無声映画、シェーンベルク、坂本龍一

2019年10月23日 講師 白井 史人

映像がない「映画音楽」というやや奇妙な音楽に耳を傾けます。日米独の無声映画伴奏譜から、西洋音楽の革新者アルノルト・シェーンベルクを経て坂本龍一まで、古今東西の音楽を横断しながら、音がわれわれにまだ見ぬ映画を「視せ」てくれる瞬間に光を当てました。

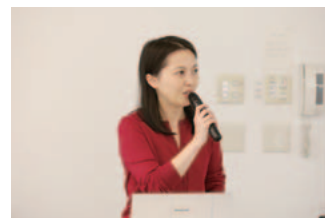


第4回

イタリア映画の時代—スペクタクル史劇とネオレアリズモ

2019年11月27日 講師 石田 聖子

中世より「Bel paese (ベル・パエーゼ、(美しい国)の意)」と呼ばれならわされてきたイタリアは、映画によく映える景観のみならず、感情表現の豊かなひとびと—生来の役者たち—にも恵まれてきました。イタリアは、それ自体が高いスペクタクル性を備える、映画と本来的に相性のよい国といえるでしょう。映画史上、イタリアと映画の親縁性の高さが発揮されたふたつの時代とその作品を紹介されました。



第5回

なぜゴダールは難しいのか？

2020年1月29日 講師 柿沼 岳志

ジャン＝リュック・ゴダールが『勝手にしやがれ』で鮮烈な長編映画デビューを飾ったのは1959年のことです。それから60年以上の歳月が流れましたが、未だにゴダールは現役の映画作家として最前線に立ち続けています。映画史に不可逆的な変化をもたらし、数多くの映画人に多大な影響を与え続けている一方、その作風は極めて難解であり、時として観客を苛立たせもします。

なぜゴダールの映画は難しいのでしょうか？なぜ多くの観客の理解を拒むような映画ばかりを作り続けるのでしょうか？そして、なぜ撮り続けることができるのでしょうか？それらの疑問について語られました。



出版会&ワールドリベラルアーツセンター

設立5周年記念イベント『本の未来・本の魅力』を開催

2019年11月16日(土)、名古屋外国語大学出版会ならびにワールドリベラルアーツセンター(WLAC)が設立5周年を迎えたことを記念し、『本の未来・本の魅力』が開催されました。会場となった本学5号館511教室には、学生や教職員、そして学外の方々など、155名が来場。記念イベントを盛り上げました。

イベントのスタートを飾ったのは、亀山郁夫出版会会長・ワールドリベラルアーツセンター長。開会の辞では、「人生100年時代にどう生きるか。そのための教養、知に対する情熱こそが本であり、読書である」と語りました。

出版の未来と題した第一部の特別講演では、「世界は本をどう読んでいるか」のテーマのもと、大学出版部協会理事長・東大出版会専務理事の黒田拓也氏、名古屋大学出版会専務理事・編集部長の橘宗吾氏が登壇。現場で活躍する編集者の思いを聞く貴重な機会になりました。

第二部は、物語の魅力についてのシンポジウムです。基調講演は、野谷文昭本学及び東京大学名誉教授が「短編小説の可能性-ガルシア=マルケスの作品を中心に」をテーマに行いました。初期の作品に見られる文体の模索から、シンプルな電文体(電報のような文体)の確立、のちの作品に見られる詩的な表現を作品とともに解説。そし



て、短編小説に必要なものは凝縮性と緊張感。言葉のイメージの広がり短編小説を読み解く魅力があると語りました。

基調講演後、本学出版会が刊行した12編から成る翻訳短編集「悪魔にもらった眼鏡」を題材にパネルディスカッションを開催。亀山出版会会長がコーディネーターを務め、6名のパネリストが翻訳を行った短編の作品紹介、作家紹介、作品の選定理由、翻訳上の工夫などを話しました。それぞれの作品の魅力はもちろん、短編集として共通するキーワードが「ミステリー性」や「幻想性」などであり、作家ごとの世界観を読み比べる楽しさがあると総括されました。

また、会場の外では、「出版会・WLAC5年間の軌跡」をパネル展示。これまで出版された書籍の販売も行われ、お目当ての本を買い求める方もいました。

第三部は会場をコミュニケーションプラザに移し、愛知県立芸術大学大学院生によるコンサート。華やかな歌とピアノ演奏で、記念イベントはフィナーレを迎えました。



パネルディスカッション参加メンバーおよび翻訳作品

亀山郁夫/チャーホフ「学生」(ロシア)
野谷文昭/ベッケル「緑の瞳」(スペイン)
梅垣昌子/ショパン「ディジレの赤ちゃん」他(アメリカ)
伊藤達也/メリメ「イルのヴィーナス」(フランス)
ハンフリー恵子/ジェイムズ「ことの顛末」(イギリス)
石田聖子/ザヴァッティニ「わたしは悪魔だ」(イタリア)
白井史人/リルケ「秘密」(ドイツ)

発行冊子

Artes MUNDI (アルテス・ムンディ)

(※ Artes MUNDI (アルテス・ムンディ) とは、ラテン語で「世界の技芸 (ぎげい)」のことをいいます。)



実質的に令和元年号となる Artes MUNDI 第5号では、今年度最大のイベントとなった上野千鶴子講演会「これから女子の生きる道」(7月9日)と、鴻巣由紀子、清水良典の二人の批評家を交えた「村上春樹とカズオイシグロ その世界性、読解の可能性をめぐって」(2018年

1月27日)のシンポジウム報告を中心に、本学の教員による論文エッセー、書評を多数掲載することができた。また、SD研修の一環として行われた精神科医加藤誠氏による講演「現代における若者の心の病」(9月25日)の原稿を寄稿のかたちで掲載することができた。また、恒例のコラム集は、「出会い」をテーマに30名の先生方の寄稿を得た。全体の編集は、亀山郁夫学長が担当、名古屋外国語大学出版会による全面的な協力を仰いだ。なお、今号から表紙のイラストを、名古屋学芸大学の水谷誠孝先生が担当することとなった。創刊号から4号まで本誌の編集を担当した名古屋外国語大学名誉教授野谷文昭先生、エキゾティシズムに溢れる魅力的なイラストを提供してくださった平木元さんに心から謝意を表す。

【目次】

特別講演
論文
実践的論考
特別寄稿
評論
講演
テーマ書評 「世界をもっと知るために」
コラム 「出会い…あの人と…あの世界と」
エッセイ 「教師と学生を結ぶ」
書評

編 集 後 記

5周年を迎えた本年度はいつも以上に多彩なイベントが催されたことを嬉しく思います。特に、5周年を記念して開催された「出版会・WLAC設立5周年記念イベント」では、「本」をテーマに熱い議論が交わされました。手前味噌ながら、議論の後の歌とピアノは熱くなった頭を心地よい空間にゆだねるタイムリーな企画だったと思います。

学生が「大いに刺激を受けた」と語った講演の一つは、本年度4月の東大入学式のスピーチで話題をまいた上野千鶴子氏の「これから女子の生きる道」です。女子間の経済格差も広がる今の時代に、女子としての自身のキャリアをどう築くか。大きな問いを投げた講演でした。また、ソーシャルビジネスと言うコンセプトができる前に、既にそれをケニアで実践し、その後、ルワンダで公衆衛生事業や各種農業事業を手掛け、今やアフリカビジネスの父と言われる佐藤芳之氏の話も忘れられません。

このようなWLACの活動をこれからも暖かく見守っていただきたいと思います。

(副センター長 佐藤都喜子)

運営者名簿

名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター

センター長	亀山郁夫 (学長)
副センター長	佐藤都喜子 (国際教養学科教授)
運営補佐	梅垣昌子 (英米語学科教授)
外国語学部担当幹事	甲斐清高 (英米語学科教授)
	小山美沙子 (フランス語学科教授)
現代国際学部担当幹事	佐藤雄大 (現代英語学科教授)
	鶴本花織 (国際教養学科准教授)
世界共生学部担当幹事	地田徹朗 (世界共生学科准教授)
世界教養学部担当幹事	白井史人 (世界教養学科講師)
	宮本真有 (国際日本学科助教)

顧問

副学長	高梨芳郎
〃	蔵田敏明
〃	恒川孝司 (常務理事・法人事務局長・名古屋学芸大学副学長)

事務局

太田恵雄 (事務局長)
後藤隆文 (庶務部長)
安江沙恵

名古屋外国語大学 ワールドリベラルアーツセンター

〒470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57
電話：0561-74-1111 (代表) 0561-75-2164 (直通)
Mail: wlac_gg@nufs.ac.jp